

第6回全国少林寺拳法指導者研修会



少林寺拳法初心者参加者による模擬授業

第6回全国少林寺拳法指導者研修会（主催＝日本武道館、少林寺拳法連盟、後援＝スポーツ庁、日本武道協議会）は9月15～17日、日本武道館研修センター（千葉県勝浦市）で、講師9名、参加者54名が集まって行われた。

今回は昨年までの内容を一新し、中学校保健体育科における少林寺拳法授業実施に向けて、教員や外部指導者の資質向上を目的に実施された。

■開講式（15日）

まず、川島一浩少林寺拳法連盟会長が挨拶した。「昨今、武道界、スポーツ界で残念な不祥事が続いています。少林寺拳法グループにとっても重要な課題です。研修会を通じて、ハラスメントの根絶にも触れていきたいと思っています。また、今回は中学校における少林寺拳法授業に特化した内容で進めていきます。それが中学校、高校、大学のクラブ活動にもつながるようにしていただければと思います。内容がさまざまな分野にわたりますが積極的な姿勢で臨んでいただきたいと思います」

次に、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長が挨拶に立った。

「次期学習指導要領に武道9種目が並列明記されます。また、研修会では資質とともに指導力の向上が大事です。中学校の生徒、門下生の指導に対して、少林寺拳法の良さをどのように伝えるか。今回の講師には総裁、会長ほか素晴らしい先生がそろっています。わかりやすい指導内容、学習内容、効果の上がるプログラムが用意されています。内容を素直にしっかり受け取っていただいて、指導力の向上に役立てていただきたいです」

開講式後は宗由貴特別講師が「中学時代に養うべき生きる力」と題して講義を行った。その中で宗特別講師は、少林寺拳法を稽古している指導者に会ったおかげで自分の人生の可能性を信じて生きることができるようになった障害を持つ中学生の話を紹介しながら、少林寺拳法には心に響くものがあることを伝えるのが大事だとした。

『中学校武道必修化指導書DVD』の上映に続いて、川島一浩講師による基本諸法の指導が行われた。



川島一浩少林寺拳法連盟会長



三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長



宗由貴特別講師



班別討論



川島講師による基本諸法

夜は班別討論が行われた。はじめに、^{おい}小井寿史講師が武道必修化の現状と課題を講義したあと、授業における少林寺拳法の価値をテーマに、班ごとの討論を行った。

■二日目（16日）

鎮魂行のあと、中島正樹講師による技術指導が、保健体育科の少林寺拳法授業1回目を想定したものとして行われた。準備運動、礼法の解説、動的ストレッチを行い、他者との合掌礼の合わせ方、座り方、立ち方の解説をした。続いて、6人グループになって全員でタイミングを合わせながら立ったり座ったりした。次に開足中段構から上段突、中段突、下段突、中段蹴を指導した。

その後は4班に分かれ、それぞれ号令法（安田^{とし}智幸講師）、リズム法（小井講師）、かかり稽古法（合田雅彦講師）、初心者指導（高坂正治講師）が行われた。

続いて、川島講師が「少林寺拳法の概念と組織」と題して講義を行い、少林寺拳法の原点から連盟の現状、課題について述べた。

次に、中島講師が「効果的な授業展開への取り組み」と題して、授業で少林寺拳法を採用されるために必要な知識を講義した。

午前中の4班をさらに班分けし、計15班がそれぞれ20分程度の指導案を作成した。その後、その指導案をもとに模擬授業を行った。

■最終日（17日）

鎮魂行のあと、安田講師が「少林寺拳法授業の評価法について」と題して講義を行った。中学校の授業での指導と部活動や道場での指導の違いとして、①少林寺拳法をやりたい生徒ばかりではないこと、②運動が苦手な生徒もいること、③多くを教えないこと、④必要なことはしっかり教えること、⑤安全面に注意することがあげられた。次に、学習指導要領にある観点を解説。平成28年度中学校武道授業（少林寺拳法）指導法研究事業の模擬授業において、演武発表の映像を流しながら、参加者それぞれが評価を行った。最後に評価は優劣をつけるよりも、できたという達成感を持って生活していけるような評価基準を作っておくことが大事だとした。

続いて、合田講師より研修会の講評が述べられた。「はじめに三日間お世話になりました。この研修会を通じて、少林寺拳法を知らない先生でも授業ができるという確信を持ちました。都道府県に帰って、一つでも多くの採用を目指しましょう。T2の先生に知っておいてほしいのは、授業には年間計画があるので、年度途中での変更は難しいです。県連単位で地道な働きかけを行ってほしいです」

閉講式では修了証の授与、川島会長、松尾貴之日本武道館振興課長が挨拶を行い、全日程を終了した。